
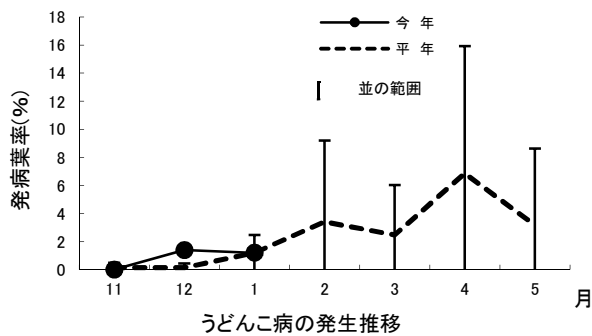


作物	とうがん(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
1月の発生量(現況)	並		
2月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。		

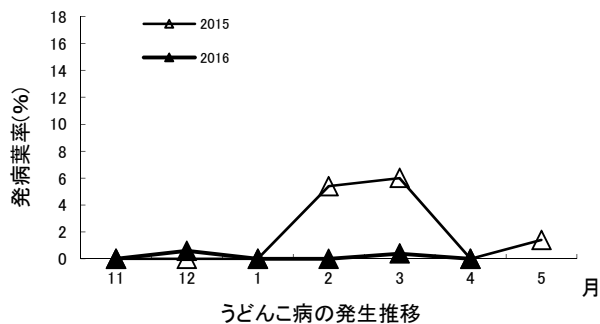
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 1月下旬の調査の結果、発病葉率は1.2% (前年0%、平年1.2%)と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



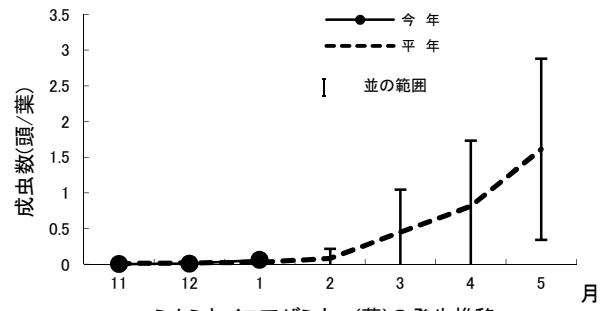
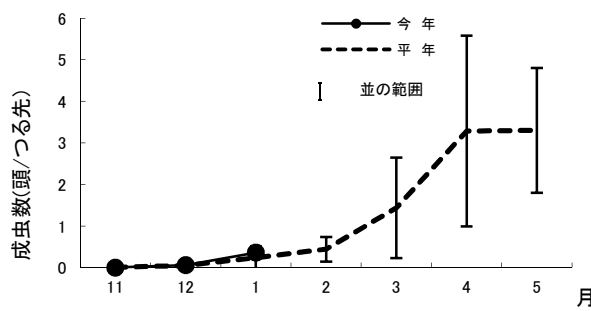
防除のポイント

- ・ 発生源となる不用な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- ・ 除去した葉はほ場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
- ・ 薬剤防除は予防散布に重点をおく。

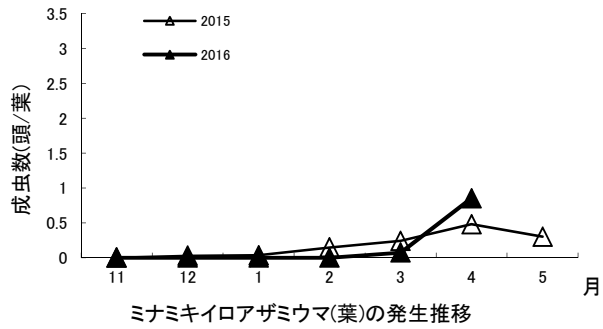
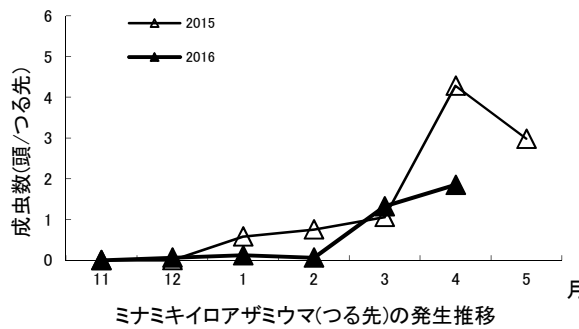
作物	とうがん(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		
1月の発生量(現況)	並		
2月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	つる先の成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

- ・ 1月下旬の調査の結果、つる先当たり成虫数は0.36頭(前年0.12頭、平年0.23頭)と平年並であり、葉当たり成虫数は0.06頭(前年0頭、平年0.03頭)と平年よりやや多かった。(今年のデータ)




ミナミキイロアザミウマ(つる先)の発生推移 (過去2年のデータ)



防除のポイント

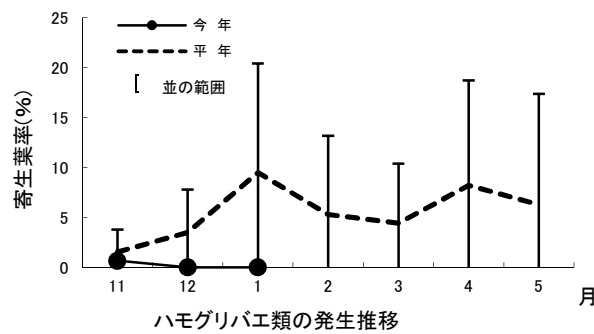
- ・ 発生源となるほ場内外の雑草を除去する。
- ・ 除去した寄主植物はビニール袋などに密閉し、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	とうがん(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
1月の発生量(現況)	(発生なし)並		
2月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。		

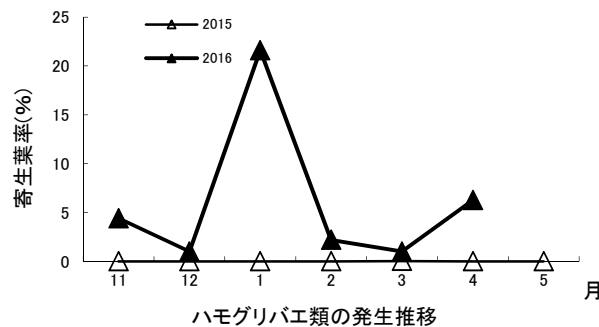
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 1月下旬の調査の結果、寄生葉率は0% (前年21.6%、平年9.5%)と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

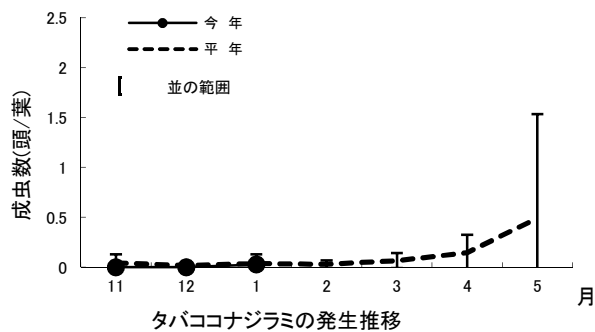
- ・ 施設内外のウリ科・ナス科・マメ科などの雑草は発生源になることから、除去する。
- ・ 幼虫期間が比較的に短いため、葉の表面に産卵痕や食害痕がみられたら防除を開始する。
- ・ 農薬やその他の防除資材の効果の判定は幼虫の体色で判定する。生存時の幼虫の体色は黄色で、死亡すると黒変する。
- ・ 老葉や摘葉後の残さは、本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。

作物	とうがん(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		
1月の発生量(現況)	並		
2月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。		

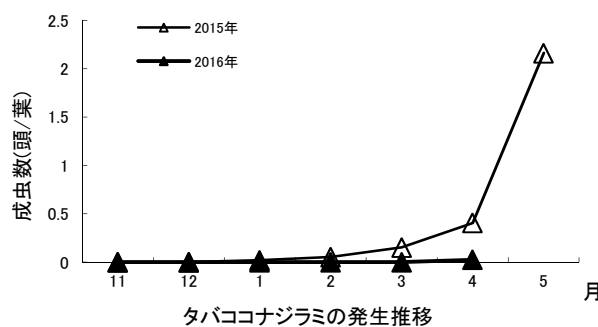
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 1月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭未満(前年0頭、平年0.1頭未満)と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



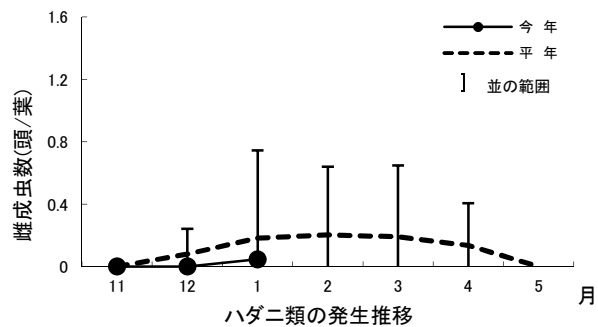
防除のポイント

- ・ ほ場周辺の雑草は発生源になるので除草を行う。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、葉裏を観察し早期防除に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統の連用を避ける。

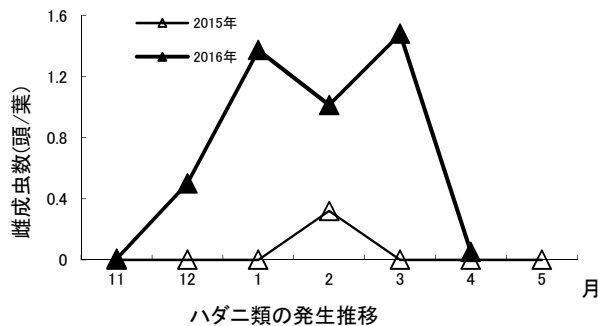
作物	とうがん(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	④ ハダニ類		
1月の発生量(現況)	並		
2月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

- ・ 1月下旬の調査の結果、葉当たり雌成虫数は0.1頭(前年1.4頭、平年0.2頭)と平年並であった。
(今年のデータ)



(過去2年のデータ)



防除のポイント

- ・ 気門封鎖型薬剤の散布を主体とした防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。